



# Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第9号

## 目次

- 「国立大学協会総会」及び「国立大学長懇談会」が開かれる
- 法人化後の就業規則の検討状況について
- ドイツとの産学官連携国際交流始まる
- 「実験動物感謝式」が挙行される
- 海外招聘アドバイザー・プログラムが実施される
- 医学部・附属病院で外部評価が実施される
- 「第10回3大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム2003」が成功裡に終了

## お知らせ

- ・医学部からー
- ・人文学部からー

## 「国立大学協会総会」及び「国立大学長懇談会」が開かれる

11月12日に第113回国立大学協会総会及び国立大学長懇談会が開催されました。本学からは、矢谷隆一学長と三村洋史事務局長が出席しました。

国立大学協会総会(<http://www.kokudaikyo.gr.jp>)では、国立大学の法人化に関する諸課題、新国立大学協会(仮称)の設立及び平成18年度からの入学試験等について協議されました。このうち、国立大学の法人化に関する諸課題については、運営費交付金、国立大学法人化後の幹部職員の人事交流、国立大学法人評価委員会に関することが議題で、特に運営費交付金の問題についてはフロアからかなり厳しい意見が出され、会議は延長されました。国立大学関係予算の充実について小泉総理大臣に要望書が提出されることになり、また、各大学では関係国会議員等に強く働きかけを行うこととなりました。

国立大学長懇談会では、河村建夫文部科学大臣から、法人化後の文部科学省と各国立大学法人との良好な関係確立についての意見が述べられました。

## 法人化後の就業規則の検討状況について

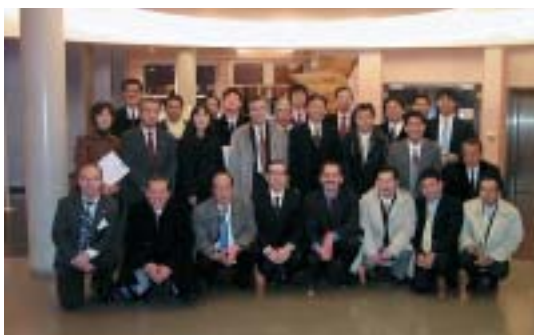
「国立大学法人三重大学」の就業規則等については、国立大学法人就業規則検討委員会(委員長:菅原庸 副学長)で検討中ですが、本則に関連した規則・規定等が約30程度あります。教職員の過半数代表者との協議・書面による協定、行政官庁への届出などの必要な事項もあります。本学における過半数代表者の決定プロセスについては、11月の評議会で報告して意見を求めているところです。また、就業規則(案)は12月の評議会に報告し、各部局に提示後、1月に学内説明会を開催して意見聴取し、過半数代表者との意見調整、労使協定原案の合意を経て、3月の評議会で審議の予定です。就業規則等は、正式には平成16年4月の法人発足後に、就業規則作成、過半数代表者の意見聴取、労使協定の締結、労働基準監督署および国土交通省に届出等の手続きを経ることになります。

## ドイツとの産学官連携国際交流始まる

みえメディカルバレープロジェクトの一環として、10月26日から11月2日にかけて、豊田長康学長補佐を団長とする産・学・官の構成員からなる派遣団が、ドイツのメクレンブルグ・フォアポメルン州(MF州、旧東独地区)及びベルリン周辺のバイオ関連産業クラスター等を訪問しました。この訪問は、日本貿易振興機構(ジェトロ)のLocal to Local事業(LL事業)の一環として支援を受けています。本学からは、豊田学長補佐の他、西川政勝 医学部講師、田丸浩 生物資源学部助教授の2名が、他に、三重県及び上野市職員、三重県内の薬事・医療・福祉・健康関連企業の代表者も加わり、総勢25名の派遣団でした。

今回の訪問は、三重県及びドイツ双方の産・学・官からなる連携組織同士の国際交流という、新しい試みです。

派遣団は州都シュベリンにあるMF州政府、MF州最大の都市であるロストックにあるロストック大学、当地のバイオコンバレーを初めとするバイオクラスター組織を訪問し、お互いにプレゼンテーションを行い、意見交換を行いました。さらに、三重県はMF州政府と、三重大学はロストック大学とそれぞれ協定を結ぶ協議を行いました。来年春には三重県がMF州から派遣団を受け入れ、自治体間及び大学間の協定の調印を同時に行いたいとのことです。MF州では、ドイツ連邦及びEUの産業振興策によって、企業誘致やベンチャー起業の支援体制に力を入れており、成功率も高いことからベンチャー起業の支援にこれから力を入れようとしている三重県・三重大学にとっては、参考になることが多い訪問でした。



写真前列中央が団長の豊田学長補佐、右隣がバイオコンバレー幹部のブランクさん。(MF州グライフスバルトにあるピオ・テクニクムにて)

## 「実験動物感謝式」が挙行される

11月4日、本学医学部構内の「医礎の庭」において「実験動物感謝式」が挙行されました。昨年度までは、医学部の主催でしたが、今年度から生命科学研究所支援センターの設置に伴い、同センターの主催となりました。同センター長の鈴木宏治教授の式辞に続いて、動物実験に携わる全学の学生・教職員ら約140名が実験動物感謝の碑の前に献花を行い、医学の発展と生命科学の進歩のために供せられた動物に感謝の念と敬意を表しました。



鈴木宏治教授

## 海外招聘アドバイザー・プログラムが実施される



Stephen W. Searcy教授

本学国際交流室は、9月に引き続き「大学改組を米国に学ぶ」と題して、米国のテキサス農工大学より、Stephen W. Searcy教授を招聘し、5回の講演を頂きました（世話人：伊藤信孝・生物資源学部教授）。専門である精密農業(Precision Farming)に関する講演は言うに及ばず、「社会への知識と技術移転」では米国、とりわけテキサス農工大学でのTLO組織について、また終身雇用の身分になる迄の能力評価とそのプロセス、終身雇用の資格を得ても毎年評価とチェックが待っていることなど、国立大学法人化に向けた有益な情報を提供頂きました。

## Invited Advisory Program

日・場所	講演内容
11/5(水) 生物資源学部	米国と世界における精密農業の研究機会
11/6(木) 生物資源学部	教育・研究・普及の統合：知識と技術の社会への移転
11/7(金) 事務局	終身在職権と昇任(格)のプロセス
11/7(金) 工学部	工学資格認定：技術者登録
11/10(月) 地域共同研究センター	外部資金に基づく研究

## 医学部・附属病院で外部評価が実施される

医学部（学部長：鎮西康雄教授）及び附属病院（病院長：葛原茂樹教授）では5名の外部評価委員を委嘱し、10月30,31日の両日に外部評価委員会を実施しました。医学部の教育・研究、附属病院の診療等全般にわたって、各担当者から現状等を説明し、評価委員に学内施設を視察してもらい、具体的提言を頂きました。委員それぞれの立場から、医学教育看護学教育の改革、研究とその基盤の確立、附属病院の経営改善等について忌憚のない意見を頂くことができました。医学部・附属病院では、国立大学最後の総括を行い、評価の結果や提言を報告書として纏めます。この報告書の内容は法人化後の運営に活かされることとなります。

## 「第10回 3大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム2003」が成功裡に終了

10月18日～21日、標記の第10回記念大会（実行委員：加藤征三・工学部長）が本学で開催されました。この国際事業は学生が主体であることに特長があり、本学が一般協定を締結しているタイ・中国・韓国・フィリピン・インドネシアのアジア圏大学14大学から69名の学生と40名の教職員を迎え、「世界におけるアジアの役割 -人口・食糧・エネルギー・環境-」をテーマに、学生による72件の一般講演と教授陣による13件の基調講演が行われ、各国や各大学の特長ある内容に活発な質疑がなされました。三重大生を含む混成8グループによるCollaborating Workshopを通して、国を超えた熱い友情が芽生えたようです。授業体験や工場研修も好評で、Friendship Plazaでの伝統的で華やかな舞踊や歌、本学学生の宮本武蔵劇も印象的でした。Farewell Partyでは、多くの学生がチェンマイ大学での再会を期して涙し、大会が大成功であったことを痛感しました。最後に主催者より、寝食を忘れて運営に献身的努力をされた60名余の本学学生とご協力いただいた多くの教官、事務職員の方々にお礼が述べられました。



## お知らせ

### 医学部から－医学部長選挙が始まる

次期医学部長の候補者は、推薦により宇治幸隆教授（眼科学）、鎮西康雄教授（医動物学）の2人となっております。11月28日に所信表明、12月2日に教官（助教授・講師・助手）層、医員・研修医・教務職員層、学生（大学院・学部）層による意向投票が行われ、最終的には12月10日の教授会で次期医学部長が決定されます。

### 人文学部から－人文学部創設20周年記念企画「知事と学生の対話集会」を開催

人文学部（学部長：渡邊悌爾教授）では、12月17日（水）15時～17時まで、三翠ホール（小ホール）において、野呂昭彦三重県知事をお招きし、学生との対話集会を開催します。学生代表（3名）の意見発表（テーマ：①三重県の食：安全で健康な食のために、②異文化交流とまちづくり、③ごみ・環境問題）を交え、野呂知事から次代を担う若者たちに、「若者と創るすばらしい三重県像」と題した講話を頂くことになっています。一般公開行事ですので沢山の皆様にご来場頂きますようお願い申し上げます。

### 投稿のお願い

各種事項（法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。畑中重光 (hatanaka@archmie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。  
(フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページでご覧いただけます。)